

- 日田市では、近年、数年毎に豪雨災害を受けている状況であり、豪雨による樹木の倒木や河川へ流出により、橋脚等に流木が滞留することで、住宅等への浸水被害が拡大するなど、災害対策が課題となっている。
- このため、河川・溪流沿い等の人工林を事前に伐採し、流木による被害の防止・軽減を図るとともに、併せて広葉樹林化を行うことで花粉症発生源対策の取組を実施する。

事業内容

○森林防災流木等対策事業

流木発生の恐れがある河川や溪流沿いの人工林及び倒木や土砂災害の恐れがある尾根・急傾斜地を対象に、更新伐等の流木被害対策を実施することで、流木による被害の防止・軽減を図るもの。

【事業主体】 森林組合

【補助率】 10割

【事業費】 8,000千円（うち譲与税8,000千円）

【実績】（皆伐）1.14ha（造林）0.75ha

取組の背景

- ・平成24年、平成29年、令和2年、令和5年と豪雨災害が多発しており、河川へ流れ出た流木が橋脚等に滞留し、住宅等への浸水被害が拡大している。
- ・スギの成長が良い河川沿いには、多くのスギの人工林が植栽され、木材の大径化も進んでおり、木材が河川へ流出した時には被害も大きくなると想定され、住民からの要望等がある。



（事業実施前）



（事業実施後）

工夫・留意した点

- ・行政機関（県・市）と森林組合が立会いの下、流木被害対策等が必要な現地について、共通の認識のもとに事前に事業個所を選定し、事業実施している。
- ・森林組合が事業主体となり、森林所有者と森林整備に関する協定書を締結することで、本事業の進捗が図られる。また、本事業の対象地以外の山林も含めて、森林組合と森林所有者が協議することで、山林の一体的な整備に繋がる。

取組の効果

- ・流木被害等が予想される現地を事前に伐採することで、豪雨時の流木被害の防止・軽減につながる。
- ・スギ、ヒノキの人工林を伐採し、広葉樹林化等を行うことで花粉症発生源対策にも寄与している。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：314,321千円	②私有林人工林面積（※1）：36,703ha	
③林野率（※1）：82.6%	④人口（※2）：62,657人	⑤林業就業者数（※2）：515人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より